

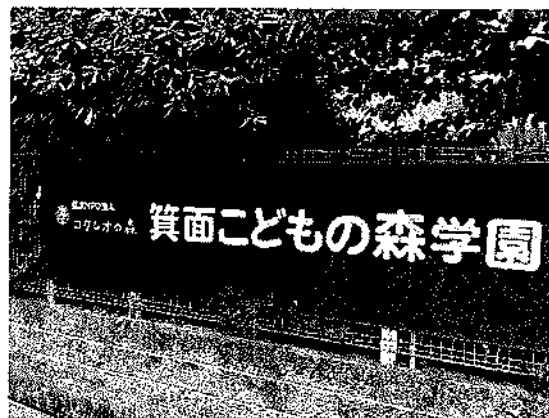
視察報告

みどりの未来

迫田 敬一

日時：2024年8月1日（木）

場所：箕面こどもの森学園（箕面市小野原西6丁目）



（1）視察の目的

個を尊重し、社会性を育て、子ども自身の意欲や意思を重視するといった教育方針を実践する効果、課題等を学ぶ。

（2）箕面こどもの森学園沿革

1999年10月 「大阪に新しい学校を創る会」発足。

2003年6月 NPO法人になる。

2003年8月 「わくわく子ども学校」開校。

2009年4月 小野原に移転し、「箕面こどもの森学園」に改称。

2015年4月 中学部を開設し、同年ユネスコスクールに認証された。

2018年 「こどもの森」「おとなの森」「こそだての森」「ミライの森」の4つの部門で事業を展開。

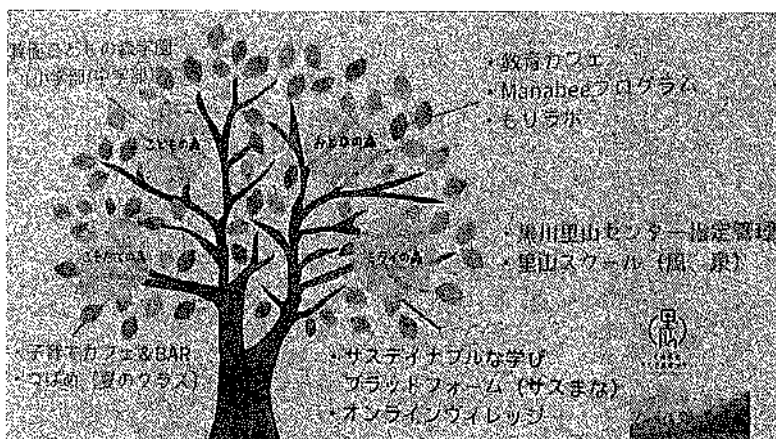
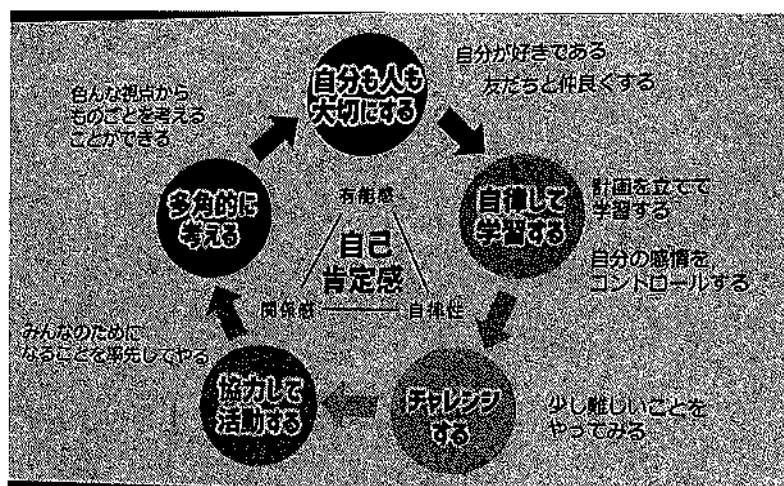
2019年11月 法人名を「NPO法人コクレオの森」に改称。

（3）運営・教育理念

・認定NPO法人コクレオの森は

「誰もが自分らしく生きられる社会」、
「平和で持続可能な社会」を創ることを
目指してオルタナティブスクール「箕面
こどもの森学園」を運営する『こどもの
森』、対話の文化を広げる『おとなの森』、
親と子の幸せを支援する『こそだての
森』、民主的な学校づくりや持続可能なま
ちづくりを支援する『ミライの森』の4つ
の活動を行っています。

コクレオ（CO-KREO）は、英語のCO（共に）とエスペラント語のKREO（創造）の合成語で「共に創る」を意味します。



・民主的で持続可能な社会を目指す学びの共同体コクレオの森

子どもの主体性を育む教育や対話の文化を広め人と人、人と自然が調和する暮らし方の普及や借頼によって結ばれる社会創りにチャレンジしています。

・民主的で平和な社会

私たちは、人びとの多様な価値観や生き方が認められ少数の人たちの意見も尊重される民主的で平和な社会を願っている。そのために、あらゆる対立を脅しや暴力によってではなく対話や話し合いを通して平和的に解決していく。

・子ども一人ひとりの個性を尊重し、民主的に生きる市民を育むオルタナティブスクールです。子どもたちの自立する力、協働する力を伸ばし人生を幸福に生きる力を育みます。

・主体的に学ぶ

『子どもは自ら学ぶ意欲をもち、自らの力で学ぶことができる』という教育観に立ち、子どもたちの自立的な学びを支援するオルタナティブスクールです。子どもの興味・関心を学習の中心にすえ、子ども自身の生活から学習を組み立てるフレネ教育やイエナプラン教育の考えと方法を取り入れています。

・民主的な学校運営

子どもたちは、自由・平等・自他尊重といった民主的な価値観を共有し、学校という共同体を担う一員です。生活のルールや行事などは、子どもたちとスタッフが話し合って決めます。

ほとんどの行事は子どもたちが中心となって企画から運営までを行なっています。

地域イベントにお参加して、保護者・職員と協力して、子どもが自分たちで活動資金をバザー出店などで集める活動もしています。

(4) 学校の概要

【生徒定員】68名（小学部48名 中学部20名）

【在学年齢】6歳～15歳（入学は中学1年生まで）

【クラス編成】8名クラス（現在の在籍数）低学年クラス（24名）、高学年クラス（24名）、中学生クラス（19名）

【学習日】月・火・木・金曜日 9:00～15:00（中学部16:00）

【職員】（常時クラスに配置）常勤7名（2名）、非常勤務7名（2名）、事務2名



(4) ユネスコスクールに認定

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示された、ユネスコの理念や目的を学校のあらゆる面（組織運営や授業、プロジェクト、経営方針等）に位置づけ、「児童生徒の心の中に平和のとりでを築く」ことを目指す、ユネスコが認定する学校の国際ネットワークです。

(5) 学習

・時間割

9:00 ハッピータイム（集会）20 分間

1 コマ目 9:20～10:00

2 コマ目 10:10～10:50

3 コマ目 11:00～11:40

昼休み 11:40～13:00

4 コマ目 13:00～13:50

5 コマ目 13:55～14:40

16:00 が下校時間

・自由進度学習

普通のドリルと身体を使って体験学習が多く、記号やパターンでは理解していません。

実際の場面がないと楽しくないので、すぐにサポートしないようにし、場面設置を心がけています。

単元は公立のものと同じ、スタッフが教科書を参考に授業の資料を作成。

・生活とのつながりが薄くならないように授業に取り入れています。

・自由作文をみんなに見てもらい、少しずつ書くのが上手くなっていきます。書き出しの検証などにより、上手くなります。

・ファミリーグループ

低学年がついていけるように低高中学年が混ざり教えます。同時に振り返り学習になります。掃除も一緒にします。

・テーマ学習

テストなし、一斉授業なしの共同学習。体験して理解することを大切にしています。

プロジェクトでは、自分のやりたいことを形にし、研究発表をします。

・選択プログラム

素材の部屋があり、手作業は発達障害などの子どもに有効で、プロジェクトは自己肯定感を養います。

個人プロジェクトとして、取り掛かったテーマはやり切って欲しいので、行き詰ったら困り感を聞き、提案をします。

プラモデルの作成もあります。購入は家庭。長期プロジェクトには1人年3000円の予算があります。

・学びの変化

高学年になると進度の差がより、個別に出てきます。

中学部では「生きるを学び」、海外研修もあります。

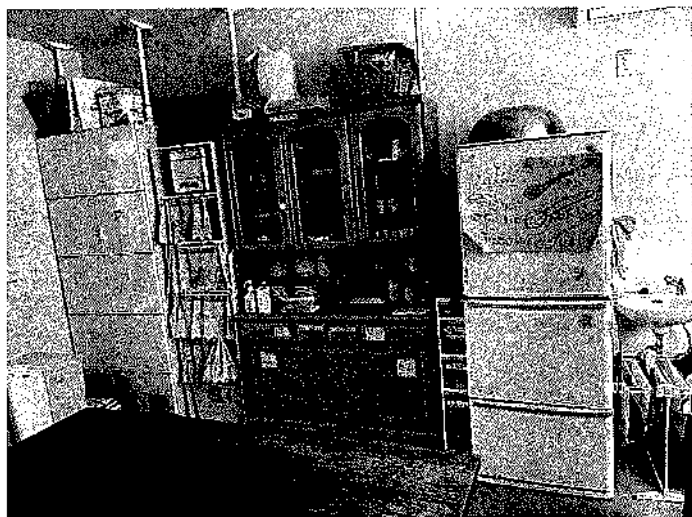
いろんなところに出かけます。子ども提案や大人提案もあります。

中学部には生徒がD I Yで作成した、ウッドテラスがありますが、自分たちでクラファンやイベントを計画・実施して実現しました。

・ワールドオリエンテーション

小学生は、具体物から始め、高学年からは自分で探究していく。

中学部は海外研修など、より抽象的に範囲が広がります。



・集会

朝はハッピータイムがあり、言いたいことを何でも言い合える集会です。

集会は、先生も1人として、多数決でない誰もが納得するまで話し合う。民主主義が多数決であるとは考えていません。

児童の発案で、昼休みに買い物をして調理する児童もいます。メニューは低学年に配慮して読み仮名メニューです。

夏祭り実行委員・ミーティング・修学旅行も、その都度、柔軟に行事を全校生の子ども達が話し合い企画しています。ルール一覧があり、子ども達から、スタッフも話し合いで決めました。最近では、グランドを耕し、水捌け良くなった。(穴掘りがブームになり、グランドに穴が多くありました。)

使用時間などホールの使い方が議題になりました。自由になるためのルールで、対話があるから一人一人が納得したものになっています。



守ってないなら集会で言ったらいい。

暴言、暴力は個別で話しますが、全校集会でも話し合います。いろんなサイズ感の話し合い。

月曜日は、スクールワーク、行事の話し合いがあります。

選択プログラムとして、参加はやりたいことを自分で選びます。

体育祭は、種目から話し合い。準備も手上げ制です。お弁当の注文など細かいことも、子ども達が進行していきます。

修学旅行費なども、クラウドファンディングやキューズモールなど募金、フリーマーケット、夏祭りの出店などで、資金の一部を集めました。

・尼崎城も児童生徒で電話して見学に行きました。

(5) 保護者・事業者支援

・自己肯定感を養う子育て支援

子育てカフェ

子育て著書「子育てハッピーアドバイス」を基に認定子育てアドバイザーが、こどもの森で大切にしている「自己肯定感」の大切さについて、毎回いろんな角度からお伝えします。参加者同士で子育ての悩みを語り合います。学校と家庭の違いがでないよう、地続きになる取り組みです。

・オルナラティブスクール開設支援

猪名川町で開設予定。既存の校舎をそのまま。私学審議会に申請していくところ。地域コーディネーターを付けています。

(6) その他

現在、入学希望者は約 100 人待ちです。

運営は、保護者の方が共につくってくれるか？共有できるか？が肝になります。

中学部は要望から。保護者と一緒につくりました。

予算は保護者から、児童生徒 1 に付き、55000 円/月。

会員 200 名の NPO の収入から、一人当たり 10 万円助成金があります。

フリースクールとは違い、お金、物資支援など行政など公的なものではありません。タブレットは欲しいです。

無認可で自称学校となります。児童生徒の居住地にある公立小中学校に在籍があります。児童生徒の様子は情報交換しています。一回は公立校を見学などしてもらい、最終的には本人の意思で入学を決めてもらいます。

学校法人に出来なかった理由の大きな要因に、森友の問題で大阪府では新設できませんでした。

5 割は教育移住。

自治、民主主義を養うところです。学校教育がやるべきメインストリームを目指しています。

児童生徒 8 人に対して職員 1 人。プロジェクトなどテーマ学習は基本 2 人体制。

有給なども取りやすく、働きやすい環境です。

発達特性により別のプリントを用意します。民主的な場はインクルーシブであるべきです。

体育祭、夏祭りに卒業生来てくれます。

